

1 自己評価(2ユニット分) 及び外部評価結果(全ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500521		
法人名	有限会社 暮らしの里		
事業所名	グループホーム 暮らしの里		
所在地	千葉県千葉市緑区大膳野町4-141		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的で穏やかな日々を送ることのできる環境作りに努めております。</p>
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>入居者、家族、地域住民から管理者は「おかあさん」と呼ばれ、気軽になんでも話せる関係が構築されている。医療知識があり、設立時から入居者を最後まで看取りたいという姿勢で入居者と家族の希望、要望、意見を聞き入れ、ホームを運営している。管理者は、入居者や職員と共に食事や民謡民舞を楽しみ、生活の中の喜びや生きがいを共有しようとする姿勢がある。改善意欲が高く、昨年度の外部評価で改善が求められる点としてあげられた項目において、改善活動が継続的に実施されている。また、計画作成担当者や職員も仕事する上で理念を実践する努力をしている。ホームの現状で出来ることをチームワークで最大化している。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価(2ユニット分) および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が事業所の理念を理解し暖かい環境作りを念頭に置き日々勤務している。	「あたたかみのあるもうひとつの我が家でありたいと思います。」という分かりやすい理念を掲げ、管理者、職員は理念を共有し、日々のケアで実践するよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に散歩へ出かけたりする中で地域の方々が声をかけてくれたり、野菜を下さったりする。教会の方がホームに足を運んで下さりクリスマスには歌のプレゼントをしてくれる。	日常生活の中で、挨拶やゴミ出し、回覧板の受け渡しや井戸端会議・雑談による地域の情報共有など、地域との繋がりがあがる。管理者は入居者、職員、地域住民から「おかあさん」と親しみをもって呼ばれ、積極的な地域交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部研修に行き得た資料を元にミーティング時に話しをして良い事は取り上げて実施、行動にうつしております。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施しているが、はたしてサービスの向上に繋がっているかどうかは不明にて努力はしているつもりです。	計画的に運営推進会議が実施され、ホームの状況を報告、雑談の中から出された意見も含めて、サービスの向上に活かすように努めている。市議員、民謡民舞の会長、民生委員、自治会長、牧師など地域の関係者も多く参加し、入居者や家族の意向等も組み入れた運営を行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員の受け入り実施またわからない事は直接相談を頂いております。	市町村担当者とは困難事例等について情報を共有している。また、市の介護相談員を受け入れていることで、ホームの実情を理解してもらい、協力関係は密になっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を内部にて行うが、玄関の施錠についてはまだ開放出来ない現状がある。	身体拘束をしないケアを実践するために、ホーム内において勉強会を実施している。医師であるオーナーと看護現場経験者である管理者が適切な対応を1人ひとり合わせて適切に行っている。施錠については、昼間、人の手がある時間帯は開けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には勉強会を通して虐待防止についての説明を行っている。日々の中でも言葉等についても気がついた点はその場で注意を促している。		

グループホーム暮らしの里 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人、家族に相談を受けた場合は必要な限り協力・支援しております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に家族・本人に当ホームを見学して頂いております。入居時には十分な説明を行っております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に何でも話して下さるよう入所時に説明済みです。ホーム以外の苦情受付についても詳しく説明しております。	入居者、家族が気軽に意見、要望を管理者及び職員に言える雰囲気や大切に、日常の対応に努めている。外部への苦情申し立て先は3機関を重要事項説明書に表記し、運営推進会議等で内容を共有しホームの運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティングを行っております。また日々の中で職員にいつでも意見がある時ある人は管理者に報告・相談するように伝えております。	管理者と計画作成担当者が中心となり、職員の意見や要望を把握し、職員の意見や要望をホームの運営に反映するように努めている。管理者の人柄もあり、職員が率直な意見を言える環境作りが整っていると思われる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が気持ち良く働けるよう各人が持ち味を生かして勤務できるよう努めております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝ミーティング実施、質問・意見はその場で気軽に相談、話し合いをしております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加時、同業・他社と情報・意見交換を行っております。		

グループホーム暮らしの里 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームをよく見ていただきお試し入所で実感してもらおうと共に入居者さんともよく話し合っております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず見学していただいてその時点で要望や不安を聞き、お試し入所・本入所へとつなげている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの支援が適切か否かよく見極め、否の場合は他のサービス利用を含めて対応しております。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩でもあり、尊重する気持ちをいつも念頭において仕事に携わっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方がいらした時は事務所にて近況報告をしております。また訪問されない場合は電話にて報告しております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族と以前関係のあった方も面会に来て下さったり、遠方の方からは電話が来たりしております。本人希望時には電話も自由にかけていただいております。	入居者や家族が大切にしているもの、馴染みのもの、場所や人との関係性を大切にしている。入居者本人の思い出や馴染みの場所などを共有し、関係が途切れないように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ホームは2ユニットあるが顔なじみの入居者もいるのでユニットを入居者に自由に行き来できるようにしております。		

グループホーム暮らしの里 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要事項は報告し、また相談には積極的に対応するよう心がけております。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方その方なりの生活が送れるよう本人に生活の意向を聞いたり現状態を維持していけるよう話し合いをしている。	日常接する中で本人の思いや意向を聞き出すようにしている。困難な入居者については、表情等から思いを推し測るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はその方によって違うが出来るだけその方に合った生活を維持していけるよう支援しております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のペースを大事にしながらその方に合った過ごし方が出来るよう見守り支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者への気付きや意見等その方の合ったプランに役立てていけるようにミーティング時に話し合いをしたり、日々の記録に残すように申し伝えている。	入居者や家族の意向をサービスに繋げられるように話し合っている。ミーティングで出た意見を取り入れ、3ヶ月に1回のモニタリングを反映させたケアプランを全職員で作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を生活記録に残すように申し伝えている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族訪問時には事務所にて近況報告、家族の相談等に応じ対応している。		

グループホーム暮らしの里 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が月に2度来て下さり演奏のプレゼントをして皆さんを楽しませて下さっています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力して下さるので、ほとんど他科受診される方はいませんが、希望があればいつでも希望の病院に行きたくて頂いております。	ホームの母体病院の医師が週1回、全入居者を診察している。訪問歯科も定期的に診療するなど医療の体制が充実したものになっている。しかし希望に応じて他病院への受診も支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師で主治医の週2回来て下さるので入居者の心身状態についてはすべて把握して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族希望時には入院して頂いております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医が専門医であり具合が悪化した時等に家族と話し合い主治医にも報告し協力を得ている。	入居時に利用者、家族に終末期の方針を説明している。母体病院と他の専門医との連携もあり、重度化した場合も対応できる体制は整えられている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時には急変時の対応や連絡方法を申し伝えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報装置の使用方法や消火器等設備の確認等定期的に消防署の方に来て頂き指導してもらっています。	ホームの2階ベランダから避難ができるよう滑り台が設置され、近隣の協力体制も構築されている。消防計画を掲示し、自衛消防隊、通報連絡班、消化班、避難誘導班等の災害プロジェクトが周知されている。	

グループホーム暮らしの里 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもある事をいつも念頭において、その人その人に合ったわかりやすい言葉で接している。	職員は入居者に敬意を持って接している。職員の言葉かけも適切で、プライバシーにも配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々関わっている中でその方の希望や困っている事を聞き対応している。その方に合ったわかりやすい方法で行っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事においても入居者優先にする事はいつも念頭において決して自分たちのペースで動く事のないようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には美容室や床屋にお連れしてその方の合った必要としている場所へ同行している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や週1回の買い出しには入居者と一緒に買い物を楽しみ等を聞きメニューに取り入れる。	入居者の希望するメニューを取り入れ、嚥下困難になってきた入居者にも、味覚を大切に料理が工夫され、職員との団楽で食事の時間が楽しいものになるように工夫している。また、可能な人は盛り付け、後片付け、食器洗いなど一連の作業を職員と一緒にやっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前は食事チェック表はなかったが新たに作りバランス量の確認をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施またうがいのが困難な時にはその時に応じて対応している。		

グループホーム暮らしの里 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の一般状態に合わせて出来る限りトイレでの排泄が出来るよう誘導を心がけている。	排泄パターンを把握し、自立に向けて支援している。特に、昼間はオムツやパッドに頼らない支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回ラジオ体操・リハビリ体操の実施にて普段より体を動かす習慣作りを心がけています。その方に合わせた食事形態にも気配りしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者のペースに合わせて入浴出来るよう入浴時間は十分に確保しています。入浴時間帯は決めています。	入浴の時間帯も一人ひとりの希望に合わせて支援をしている。入浴を拒否する人にも、まず職員との信頼関係を作り、タイミングを見ながら声かけをするようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースに合わせながら無理なく生活していただいています。冷暖房の調節や寝具の調整も行ってあります。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬する際は入居者の名前を読み入居者の前で再度名前の確認をし必ず服薬確認をしております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の残存能力を最大限に生かせるよう日々の関わりの中で方法を見つけ話し合いを実行しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある方については以前その方が行っていた遠方の美容室にも行っていただいている。家族にも協力・了解を得ながら外出に連れて行っています。全員をお連れするのは現状では困難であり行かれる方のみ外出になっています。	入居者個々の希望に応じて買い物、散髪、美容室、散歩等を行っている。冬でも雨以外は、車椅子の人も外出している。馴染みの店に外食することもある。	



グループホーム暮らしの里 自己評価(2ユニット分) および評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方においてはご本人に預け買い物等も職員同行のもとしていただいております。金銭管理の困難な方は家族からお小遣いを預かり職員が管理しております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはスタッフ見守りのもいつでも自由に電話をしていただいております。手紙のやり取りを楽しみにされちいる方もいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんに満足していただいていると思っています。	室内は温度、湿度とも適切である。日当たりの良い畳のスペースには炬燵が置かれ居心地の良い空間になっている。玄関、居間は季節の花や観葉植物が置かれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は入居者の皆さんがホール内で過ごされている事が多い。畳のスペースにはこたつを置き家庭にいるような感覚で過ごしていただけるよう環境作りに配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、自宅で使用していた物を出来るだけ持ってきていただき使用しております。	家族の写真や好みの絵を飾ったり、使い慣れた筆筒、鏡台等を持ち込んで、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方よっての生活レベルの差があるのでその方に合った自立支援の継続に努めております。		